水稲管理情報No.02

令和4年5月16日
JA北九・北九州普及指導センター

令和4年産水稲におけるイネカメムシの対策

昨年カメムシによる斑点米の中で、新たに「イネカメムシ」による被害が確認されています。斑点米がわずかでも発生すると、品質低下につながるため、注意が必要です。

1. イネカメムシの生態

- 籾の基部のみを加害する。**出穂期に加害されると不稔**に、**穂揃い期以降に加害されると斑点米が生じる**。
- 水稲の出穂前後（7月下旬～8月下旬）に水田へ飛来し、産卵・増殖する。その後、8月下旬以降に出穂する水稲ほ場へ移動する。
- 日中は水稲の株元に隠れており、夜間に穂へあがって加害する。

イネカメムシ

○体長12～13㎜

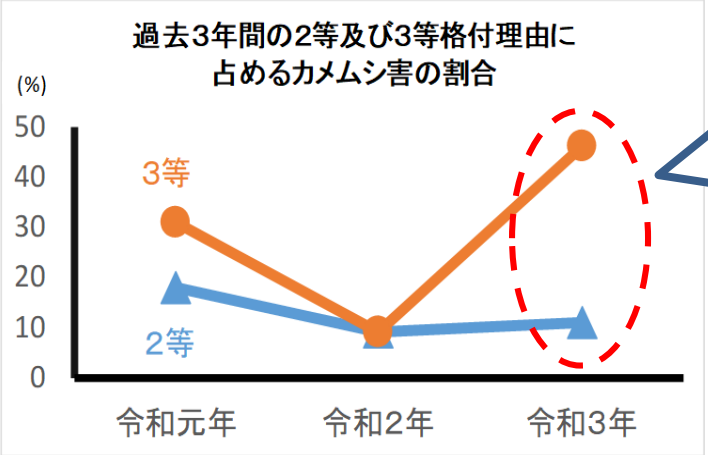
○国内で越冬する

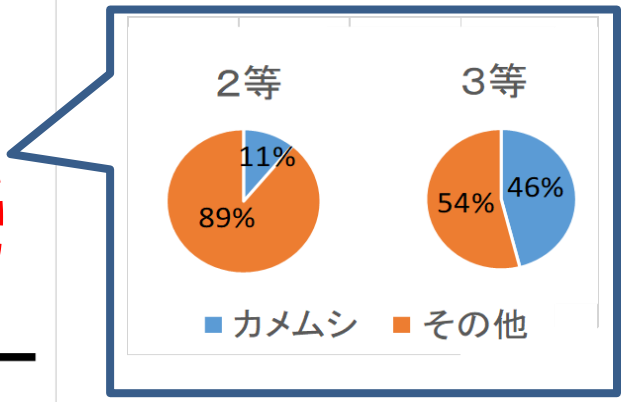
○他のカメムシより加害時期が早い

斑点米の例

籾の基部を加害

2. カメムシによる被害状況（JA北九米検査結果による）





- 3等格付理由に占めるカメムシ害の割合は、令和元年から令和3年にかけて増加しています。
- 令和3年産米は、2等格付理由の11%、3等格付理由の46%がカメムシ害であり、カメムシの被害が品質の低下に大きく影響しています。

3. 令和3年産のカメムシ多発の要因として考えられるもの

- 暖冬の影響でカメムシの越冬数が多かった可能性がある。
- 適期防除が不十分であった。
- 出穂前の畦草管理が出来ず、カメムシが繁殖しやすい環境であった。

4. 令和4年産での対策

① 夢つくしは穂揃い期防除を、元気つくし・ヒノヒカリ等の出穂の遅い稲は出穂直前及び穂揃い期の2回防除を行いましょう。

昨年度発生が多かったほ場は特に注意し、2回防除を検討しましょう。

② 水稲管理情報及びイネカメムシを含む斑点米カメムシの発生状況に注意しましょう。

令和4年産水稲における管理情報を参考に、ほ場での発生状況を確認してください。

③ 本田で防除する際は、株元まで薬剤が届くようにしましょう。

薬剤は株元にいるカメムシに届くように散布しましょう。また、大型のカメムシのため、粒剤よりも液剤や粉剤の方が防除効果が高いです。

●カメムシに対する薬剤例

名称	希釈倍率 使用量	散布液量 （ℓ/10a）	使用 回数	使用時期
アルバリン 顆粒水溶剤	2000倍	60～150	3回	収穫7日前まで
アルバリン 粉剤DL	3kg/10a	－	3回	収穫7日前まで
キラップ フロアブル	1000～ 2000倍	60～200	2回	収穫14日前まで
キラップ 粉剤DL	3～4kg/10a	－	2回	収穫14日前まで